

**昭和五十三年六月十日の手紙(手紙の公開に同意する返事)**

『(前略)愛子も四年生(九歳四か月)になり、元気に毎日往復五キロの道をお友達と楽しく登下校しています。

特殊教室の担任の先生も、三年生から変わり、若い男の先生です。男三人、女二人の五人クラスです。

特殊教室の様子は、以前と余り変わりありません。学校のことは学校の先生に任せて、余り気にかけないようにしているのですが、どうしても気になり、あせります。

時折、学校の様子を見に行くと、同じ四年生の普通学級を見て、かなり程度が高くなっているのに驚かされています。事故さえなければ、同じように勉強ができたのにと、残念で仕方がありません。

他校のいくつかの特殊教育や養護教室等も、参考になることがあります。はしないかと、時折訪問したり、参考になる記事を求めて本屋を回ったりしています。

会社からの帰宅後は、以前と同じように、愛子と楽しく遊んで過ごしています。愛子は、二人で過ごす一、二時間を、毎日、楽しみにして

待っています。

一対一で学習させれば、普通児と違って長い時間はかかりますが、教え方次第で覚えることができると、思うようになってきました。どう教えるかがむずかしいのですが、少しずつ、少しずつ進歩してくれるのが嬉しいです。

さて、お手紙の件ですが、

**往復した手紙が**、私どもと同じ不幸な親子の方々に参考になりますなら、役立ててほしいと思います。愛子の名前を、実名にするか仮名にするか、家内といろいろ話し合った結果、愛子は女の子でもあり、将来、このために万一の不都合なことが起きるのを心配します。

それに、現状の愛子は、まだまだ実名で発表して頂ける子供ではありません。もし回復できる確信が得られるならよろしいが、まだまだむずかしいように思います。できることなら、仮名でお願いできましたら幸甚です。よろしくお願い致します。

**伝えたいこと**

不慮の交通事故で九死に一生を得たわが子。意識不明の二週間。病院生活。それから通院生活を通して、何をおいても健康の大切なこ

とを痛念し、まず体力作りに専念しました。

体力が出てくれば、自然に頭の働きも少しずつつながり、しっかりとしてくることを痛感します。まず、体力作りが一番大事だと思います(、、、は著者、以下同じ)。

知的面は、石井先生の“漢字の読み方ゲーム”が突破口になり、厚い厚いコンクリートの壁が破れて、明るい日ざしがさし込み、今私ども親子は、第一歩を石井先生のお蔭で踏み出したところです。

毎日の、一日一日の、小さな小さな積み重ね、根気と小刻みの繰り返しで、今後も精一杯、未知の可能性を信じて、親子ともどもがんばる覚悟です。現在が遅れている、劣っている、と言って悲観せず、明白という白を信じて努力していきたいと思います。

次に、私の手持ちの本の中から、数冊の本を紹介します。参考になれば幸甚に思います。

親こそ最良の医師(グレン・ドーマン著・サイマル出版会発行)

ドーマン博士の幼児開発法(ドーマン著・講談社発行)

石井方式漢字の教え方(石井勲著・学燈社発行)

月刊花園文庫(石井方式漢字の絵本・登龍館発行)

太陽に向かって走れ(マリリン・M・シーガル著・日本文化科学社発行)

(著者注、本書の著者は脳障害児の母親。ドーマン博士の指導を受けて重度の身障児が障害を克服していく道の報告書。リーダーズダイジェストに要約され紹介されて、世界中の読者を感じさせた本)以下略。

愛子の以前と現在

(イ)漢字ゲームを始めたころ(五歳)

幼稚園に行っていましたが、お友達と同じことができず、長い時間座っていることもできず、教室から抜け出して外で一人でブランコに腰掛けたり(ブランコを揺らすことができなかった)滑り台を滑ったりしていることがありました。

午後になると、疲れて机にもたれて寝ている日が多かったように思います。日によって頭が痛いのか、顔をしかめて、家に帰るとたたみの上で寝転がっていました。

家から四、五百メートル先の遊園地まで、行きは手をとって歩かせて行きますが、帰りは私が背中におぶって帰らなければならない状

態でした。

とにかく、弱くてすぐ病院に駆け込むことが多くて困りました。熱が出ると、頭部損傷の後遺症が出ないかと、そのたびに心配しました。

家では、童謡のレコードをかけて、それを聞かせるのが精いっぱい  
の状態でした。

(口)現在(特殊学級四年生)

- 1 五百数枚の漢字カードが読めるようになりました。
- 2 一年生の学習漢字七十六字はほとんど書け、今は二年生の漢字を練習しています。
- 3 平かなは全部読み書きができ、一、二行の文が作れます。
- 4 一年の国語は『上』『下』とも上手に読みます。現在二年『上』を学習させています。

月刊花園文原や講談社の絵本も、読ませたり読んでやったりしています。

- 5 カタカナは全部読め、今、書けるように練習しています。
- 6 三キロ離れた公文算数教室へ、自転車に乗って一人で行き(毎週、月、金の二日)課題をやって帰って来ます。

7 時計は何時何分と読めるようになりました。

8 トランプ遊び(ババ抜き、七並べ、時計、戦争等)ができます。

9 百円以下の買い物ゴッコができます。

10 講談社の昔話絵本や花園文庫を一人で読んでいることがあります。

11 年下の子とよく遊びます。

12 台所、畑仕事、掃除等、いろいろなお手伝をします。今日も、学校から帰ると、家中で田植えをしている所に来て、「私もやりたい」と言って、田植えの手伝をしました。

13 水泳は、昨年、ビート板にとまり、二、三メートル泳げるようになりました。』